

夏目漱石『坊っちゃん』の世界 — 「坊っちゃん」はなぜ笑われるのか —

★開催日時、開催場所

平成28年9月8日（木）、15日（木）の2日間、豊田産業文化センター内とよた男女共同参画センターにおいて、一般学科教員 山口比砂による公開講座「夏目漱石『坊っちゃん』の世界」が開催されました。

★講座全体の説明

一般の方々を対象として開催された本講座では、『坊っちゃん』誕生の背景や、物語構造などを、漱石の書簡や時代状況、当時の学校制度など、様々な角度から考察し、漱石文学の核心に迫りました。豊田市だけでなく、みよし市在住の方の申し込みもあり、12名程の受講生の方々が2日間にわたって漱石文学の世界を満喫されました。

★初日の説明

8日は、『坊っちゃん』誕生の経緯を辿ることから考察を始めました。直筆原稿や、出版過程を確認した上で、帝国大学入試委員の仕事依頼に対して、漱石がどのような考えを持っていたかを、漱石の書簡や同時代資料から探りました。市民運動の高まりや、標準語教育、さらには、島崎藤村『破戒』との比較によって『坊っちゃん』を検証し、夏目漱石の小説世界の奥深さを読み味わいました。

★2日目の説明

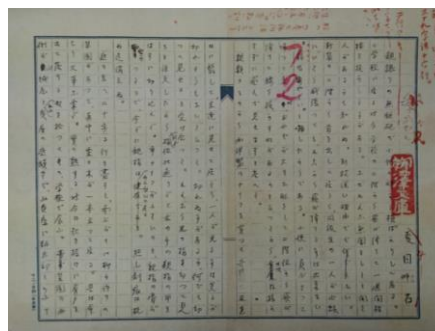
15日は、最初に、当時の物理学校卒業の社会的価値や、学生生活の描かれ方から、「坊っちゃん」は決して「無鉄砲」ではないことを確認しました。また、「清」がこの小説の構造を支える重要な人物として描き出されていること、清が「坊っちゃん」に対して持つ二つの思いには大きな矛盾があること、さらに、結末の読み方には、多様性があることなどを検証しました。高専図書館蔵『鶉籠』の初版(復刻版)も手に取ってご覧いただきました。

★まとめ

受講生の方々は、単なる鑑賞とは全く異なる様々な作品へのアプローチ方法に強い関心を示していらっしゃいました。当時の時代背景を知ることによって、今まで気付かなかった新たな読みの可能性を感じていただく、有意義な公開講座となりました。



公開講座の受講風景



「坊っちゃん」直筆原稿